

♪ごあいさつ♪

理事長：新井慶之

2019年、平成の終わりと令和の始まりを目の当たりにする喜びと同時にこれからの法人運営の難しさを思う時、緊張感を感じます。おかげさまで、NPO法人セサミは、18年目の階段を着々と上りつつあります。

これも一重に、支えてくださったご利用者のご家族の皆様、行政ご担当者の方々、相談支援事業者の方々、各事業所の方々のご理解とセサミのスタッフの努力の賜物と感謝いたします。

「2002年→2020年」セサミががんばるためのスローガンです。1964年生まれの新井が、第2回の東京オリンピックまでたどり着くための心の支えとなる数字でもあります。新井の還暦も間近に見えてきました。

これからも、セサミの活動を皆様のお力で、継続させていただければ幸いに存じます。よろしく願いいたします。「この業界」に携わって、はや「四半世紀」。ベテランと呼ばれるようになりました。

様々な課題が山積する中、私が身近な人たちに伝えなければならないのは、責任感や大変さよりも「楽しさ」だと考えています。

少しでも、「新井はいつも楽しそうだ」と思ってもらえるように、ご利用者一人ひとりと接し続け、範を示していきたいと思ひます。

障がい福祉を取り巻く環境を、昨今の状況と照らし合わせて考えると、過去の歴史や功績にばかり目を向け、有頂天になっているばかりではいけない現状も見えてきます。

世の中どこも「人手不足」の時代です。介護支援の業界も例外ではありません。外国人労働者の入国数増加に関しても、もろ手を挙げて喜べる状態ではありません。

ご利用者の「地域生活」を応援するためにホームヘルパーステーションは必要不可欠であります。地域のヘルパー事業所の経営者の方々の中には、

- 「今のご利用者の数を増やせない」
- 「ヘルパーの数が減り続けている」
- 「ヘルパーの高齢化が進んでいる」
- 「私の代が終われば、いずれヘルパー事業所をやめようと思っている」という言葉が聞かれます。

結果はすぐには変わるものではありませんが、少しでもその現状を改善すべく、新井は様々な場で人材確保についての提案をしています。

※以下裏面へ

セサミふれん



ヘルプ、ステーション、事

ふれんずキッズ



セサミすまい




ゴールデンウィーク予定表

	4月				5月					
	27 (土)	28 (日)	29 (月)	30 (火)	1 (水)	2 (木)	3 (金)	4 (土)	5 (日)	6 (月)
キッズ	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
ふれんず	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
すまいる	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×

「セサミ事務所」 「セサミふれんず」
 〒374-0065 群馬県館林市西本町7-21
 Tel・Fax 0276-74-1331
 携帯 080-5012-7476 (新井)
sesame-hirakegoma@r3.dion.ne.jp (PC)
sesame-hirakegoma@ezweb.ne.jp
(雑草・新井)
「セサミすまいる」
 〒374-0062 群馬県館林市広内町17-13
 Tel・Fax 0276-78-7379
sesame-smile-hirakegoma@ae.auone-net.jp (PC)

お問い合わせメール
「セサミふれんずキッズ」
 〒374-0025 群馬県館林市緑町2-7-22
 Tel : 0276-51-6527
sesame-kids-hirakegoma@ab.auone-net.jp (PC)
same-hirakegoma7@ezweb.ne.jp

NPO セサミ 検索 
 インターネットはこちらで検索

○地域自立支援協議会で行政や事業者が集まる席で「利益主義」だけでない真の障がい福祉の在り方や「障がい」に対する地域の理解の啓発活動。

○一年だけですが、「学校評議員」として、学校やPTAの皆様と交流することをきっかけに、「地域協力」と「課題の共有」について話し合うこと。

○群馬社会福祉大学を有する昌賢学園の協力で、館林の群馬社会福祉専門学校両毛サテライトキャンパスにおいて、初任者研修や強度行動障害支援者研修、実務者研修の講習会の講師として協力することにより、支援・介護従事者のすそ野を広げる活動を行なうこと。

○放課後等デイサービスやヘルパーステーション、サービスステーションにおいても、

ご利用者を一つの事業者だけの対応でなく「まきこみ、つながり、助け合い」の精神で「一人のご利用者をあえて地域の複数の事業者で支え合い、知り合いの輪を広げる努力」を続けています。

○太田福祉人材バンクにおいては、介護事業で働こうとする方々に仕事のやりがいと楽しさをお知らせする機会をいただきました。

○各方面に働きかけ、ボランティアの受け入れを積極的に行なっています。

セサミ職員のお子さんや友だち、中学生や短大生、大学生の受け入れです。

○ご近所づきあい大切です。知り合いにあったら、笑顔と元気な挨拶でお話。

私たちは、内外に向けて、「笑顔の提供」しているでしょうか？

「やっぱり、あの仕事大変なんだ」「つらそう」などと思われたら、大変です。

「笑顔でにこやかに穏やかな時間を過ごす様子」を見せることが一人一人の職員への課題です。

これから先の人材を一人でも多くセサミに来ていただき、よき支援者を増やすための必要不可欠な要素です。

「仕事を楽にしたかったら、仲間を増やすこと」（シェアリング）もちろん、法人の運営者として、業界全体としても「働きやすい仕事」を目指す努力は、継続する必要があります。「休みやすい」「給料が良い」「能力に応じた昇給体制」「手当や福祉厚生充実」.....

いつも「ありがとう」が聞こえる理想的な環境へ。「セサミを目指すべき職場」にするための第一歩です。